

お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成 21 年 2 月 12 日 (木)

文理融合リベラルアーツ科目を受講して ―受講学生の意見―

質疑応答

司会：人間文化創成科学研究科 人間科学系 教授 小林 誠



小林誠 ここで今の学生の皆さんの発表について意見交換したいと思いますので、どなたでもいいので、ご自由に挙手をお願いします。

三浦 皆さんの発表は素晴らしくて、うれしくなりました。それから、こんな良い授業があるのだなということであらためて思いました。質問したいのは、テーマを掲げて授業を組むということについてで、一つのテーマで数科目あるというのも特徴ですし、一つ一つの科目にテーマがあるというのも特徴なわけですね。それについてプラスマイナス両方の面が出ているという意見が出たと思います。テーマにこだわりすぎていたというのと、テーマがあることで視野が広がったという二通りだと思うのですが、その点について、例えば最初の生命と環境の「地域と風土」の本井さんとか「人間の安全保障」の成田さんの場合は、あるいは最後のNPO実習の米澤さんも同じなのですが、全体の系列テーマとの関係はどうだったのかということをお伺いしたいと思います。

本井 質問の内容をあまりかみ砕いていないのですが、授業の「地域と風土」、地域研究というものが、リベラルアーツ全体の趣旨とどうリンクするか？

三浦 生命と環境というテーマにどう関係するか。

本井 地域研究、それから地域を考えるということは、やはり生命、それから私たちの文化などを勉強することとも関係するので、その意味では、生命と環境の中にはかかわるとは思いました。

ただ、ほかの発表の中でもあったのですが、私もこの授業だと、地域、風土、地域研究、それだけというものしか感じられなくて、地域研究などを通して生命や環境などについても考えていくきっかけになるのかなとは思ったのですが、授業としては地域、風土、地域研究限定的に進められていたなという感じがしました。以上です。

成田 私は今、人文科学科から2年生でグローバル文化学環に進学したいと考えているので、このリベラルアーツ「人間の安全保障」の授業は特に関心があったので取りました。なので、私個人としては、生活世界の安全保障のシリーズだから受講するという意識は全くなくて、別に「現代社会分析Ⅱ」という授業名でも構いませんでした。ただ、荒木先生は、グローバル文化学環の先生でいらっしゃいますので。ただ、理系学部の生徒さんが取りやすいとか、リベラルアーツの科目として見ることで、受講しようかと考えるきっかけにはなると思います。

それから、私はほかの「生活世界の安全保障」の授業科目は、前期の小林先生のはシリーズなので取ってはいませんが、国際問題を考えるという上では関連していましたが、そのシリーズを取ったからといって、やはり先ほどの意見にもありましたが、副専攻になるだとか、そのようには考えません。以上です。

米澤 私も、リベラルアーツだとか、副専攻になるからだとかという視点は全くなくてというか、今日知ったというか。すみません。ただ単に、実習という性格もあるのですが、実際に自分で学んだことが現代社会ではどのような現状にあるか。そこで自分が知って、それから生活世界の安全保障という、そんな大きな視点までは私は持っていきえていなかったのですが、一番の目的は、ただ単に私の興味を満たしたかったというのがあるのですが、そこから自分が学んだことを、これから社会の問題点や安全保障の問題にどう結び付けて考えられるかという、そのきっかけとしてはとても意義のある授業だったのかなと思います。

熊谷 グローバル文化学環の熊谷です。最初の授業の担当者なのですが、残念ながら、最初の本井さんの報告を聞けなくて、すみません。今のやりとりなのですが、僕が思うに、LAの科目群ができる前から存在していた科目と、それからこれができて初めて作られた科目の2種類があって、私の科目は地域研究という前身があって、今年も地域研究として取っている学生が若干いるという状況であったために、最上先生には申し訳ないのですが、「生命と環境」という全体のコンセプトを、良くも悪くも、あまり意識しないで授業をやったというところがあったかなという気はします。それは多分、2番目「人間の安全保障」の科目は国際開発論の科目を衣替えしたものだし、「NPO入門」も前からあった授業ですよ。そういう形で、良くも悪くもスタイルが確立している授業と、それからこれ向けに作られた授業の違いというのがあったという気がします。どっちがいいという話は簡単には言えないと思いますが。

小林誠 では、ほかに何かご意見か、ご質問をどうぞ。

村田 食物栄養学科の村田と申します。私もちょっと遅れて最初聞けなかったのですが、2年生と1年生、多分両方発表されたと思うのですが、1年生は最初からリベラルアーツということで受けられたと思うのですが、2年生の場合には去年の、今までの普通のコア科目というスタンスで聞いている科目と新設の科目と両方受けられていると思いますので、その辺で、今年は何かすごく変わったなどか、やはり同じだなどか、その辺の感想があれば。2年生の方にお伺いしてみたいのですが。

小林誠 2年生の方で答えられる人いませんか。

鈴木美 文教育学部人間社会科学科の鈴木です。私たちの世代は、ちょうど前の学年の3年生でコアクラスターが終わってしまって、2年生は取れないと言われて、下の学年からリベラルアーツが始まったという、ちょうどぼみの世代だったのですよ。なので、1年生のときには基礎講義として科目を取っていたので、どうなのでしょう。履修登録するときにも、リベラルアーツとしてではなく、私は芸術Iという名前を取ったので、そこまでリベラルアーツは意識していなかったというのが正直なところですね。多分プログラムの始まったタイミングなどもあったかもしれませんが。

あとは、私の場合ですが、1年生のときに基礎講義をほとんど単位として取ってしまったので、2年生のときには、この「舞踊における色・音・香」は興味があるなと思って取った単位だったので、自分の興味としてリベラルアーツがあるということは、意義があるかなと思います。科目名やシラバスを読む限り、とても面白そうな授業が多かったり、参加体験の授業が多いので、別に単位が終わった後でも、「ちょっとこれ取ってみようかな」という興味引かれるものが多かったです。

小林誠 ほかに質問や意見のある方。

荒井 皆さん、楽しい発表をありがとうございました。教務チームの荒井と申します。
質問としては、皆さんがその科目を取るきっかけになったのは何なのかということです。例えばシラバスを見たとか、開講科目を見たとか、そういった履修を決めたきっかけとなった材料を教えてください。

小林誠 きっかけになった情報をどこから得たか、ということですが、どんどん一言ずつ。

学生A リベラルアーツの存在は、前期が始まる一番最初に配られた時間割で知りました。授業自体は、時間割を見て決めたというのが正直なところですよ。

学生B 私は、去年入学した1年生なのですが、入学してすぐに、パンフレットといえいいのでしょうか、リベラルアーツの案内を頂きまして、それで教員の方々との説明を同時にいただきながら、いろいろとリベラルアーツについて教えていただきました。

学生C 同じく私も1年生なのですが、入学当時に頂いた、やはりリベラルアーツ専用の冊子といいますか、パンフレットで知って、そこから選びました。

鈴木香 私も1年生なのですが、最初から解剖の授業をひたすら探していたので、見つけたのが、たまたまりベラルアーツでした。

李 同じクラスの鈴木さんが、この授業を取って、一緒に取りました。

学生D 私は1年生なのですが、時間割が空いていて、そこに何か入れようかなと思って、それで探して、またシラバスを見て、内容が面白そうだったので選びました。

学生E 私も自分が本当に取らなければいけない教職とか学科共通だけ取った後に余ったコマを埋める感じで入れました。

学生F 私は、色・音・香で舞踊とおいしさや宗教を取っていますが、それは色と香を意識したのではなくて、興味があったとか、「おいしさと色・音・香」では何か食べられるのかなという期待から取っています。

何で見たかという、入学してすぐのときにパンフレットを頂いて、すごく丁寧に説明されていたので、知ったのはそこですが、実は説明はよく分からなかったです。実は友達の間で「リベラルアーツって何なんだろうね」というのは結構言っていました。

学生G 私は、4月に成績をもらうときに、そこにチラシが入っていたので、2年生は授業を少なくするから頑張ろうと思ってやりました。あと、ホームページにも載っていたような気がします。それで家でもう1回調べ直したりはしました。

学生H 私も、まず成績をもらうときに一緒にもらう時間割やシラバスの内容を読んで面白そうだなと思って、あとは自分の専攻や教職で取らなければいけない科目と相談して舞踊のリベラルアーツ科目を取りました。あと、ホームページのシラバスは冊子のより詳しく内容が書かれてあるので、それも参考にしました。

学生I 私は、入学式のときにもらったリベラルアーツのパンフレットを見て、リベラルアーツのことは知ってはいたのですが、正直ちょっと

とよく分からなくて、面倒くさいなという意識があったので、先に普通のコアの方を取って、空いた時間を、時間割を見ていたら、興味がある内容があるから取ったという形でした。系列などは全く意識しないで、興味のあるものだけを取った形です。

小林誠 あと、教員の人ではなくて学生で、ぜひ言っておきたいことがあれば。

学生J ホームページ、インターネットのシラバスなのですが、移行期間なので仕方がないことかと思いますが、例えば「舞踊における色・音・香」だったら、リベラルアーツでも出てくるし、芸術Ⅱでも出てくるので、同じ授業なのか違う授業なのかが分かりにくいときがあったりしたので。あと、大学院の科目も混ざっているので、ホームページの履修登録はすごく便利なのですが、もう少し改善していただきたいと思います。

小林誠 ありがとうございます。ほかにありませんか。

三浦 第2部は学生の方が全員残れるか分からないので、お答えしておきたいことが二つあります。

一つは、このリベラルアーツの科目というのは、既に出ています、基礎講義という科目から衣替えをしたというものと新しく作ったもの、2種類あります。衣替えをしたのは、継続して上級生にも取れるようにということもありました。指摘されたように、前の基礎講義というのは、ディシプリンオリエンテッド、〇〇学と付いていますよね。だからディシプリンを主にしてやっていくというのが旧来の基礎講義なのです。今回のリベラルアーツの方は、サブジェクトオリエンテッドと呼んでいるのですが、テーマに導かれてやっていくというように発想を変えています。両方が共存していますので、中途半端であるという問題が出てきていると思うのですが、サブジェクトオリエンテッドの場合も、サブジェクトからはみ出してはいけないということはないのです。オリエンテッドは、それに導かれて広がっていくというのがリベラルアーツの狙いなので、話を聞いて、教員も学生もサブジェクトをやることで深めていくけれども、そこからさらに広がっていくという授業にしていけばいいのではないかなと思って聞いておりました。

二つ目は、5科目で副専攻というのはちょっと安易ではないかということで、そういう厳しい意見が出るのはとてもうれしいのですが、副専攻とは呼んでいません。系列履修の証明を出しますと。ですから皆さんの場合、例えば食物栄養学科なら食物が主で、それを60単位とか取らなければいけないわけで、それに比べて10単位で副専攻といったら、それはた易いと思いますので、副専攻とはさすがに言っていない。皆さんがこういうテーマについて学びましたということが印に残って、その後自分の活動に、就職のときもありましょうし、ほかのときにも生かせればということで証明を出すというように作っています。ただ、さらに5科目取った人でディスカッションか何かをやったらさらに深まるだろうというのは、とても良い提案をいただいたと思います。最後、基礎講義と文理融合リベラルアーツでどう変わったかと。「リスクの社会史」というのは、実は私も参加していて、これは以前から、基礎講義ではないのですが、やっていたものを、今回「リスクの社会史」ということで、文理融合リベラルアーツの中に組み入れました。変わったなと自分でも思いましたのは、リスクということについてかなり考えざるを得なくなって、先ほど五十嵐さんが最後のパネルディスカッションで、リスクというのは悪いものだと思ってきたけれども、リスクというのは常にあるもので、その上でどうしたらいいのかという、リスクがあるから平和や安全も考えられるという、ひとつのスパイスのように考えたかどうかという意見をディスカッションのときに言ってくれて、なるほどと思ったのです。ですから教員の方も、そのように皆さんの意見を聞くことで発見があるというようになっていけばいいなと思っています。

小林誠 はい、どうもありがとうございます。では、ここで第1部を終わりたいと思います。とても面白い議論ができたと思います。

お茶の水女子大学
Ochanomizu University